



「いま私たちができること」

蔵前小地区コミュニティ委員会では、昨年新たに迎えた蔵前小学校新校舎でのコミュニティ祭りの教訓をもとに、新校舎の魅力を最大限に生かし、東京オリンピックという夢と希望に満ち溢れたスポーツの祭典の魅力を体験できる企画等、いかにして子供たちにかげがえない経験と思い出をプレゼントするかをずっと楽しみに計画・構想をして参りました。

しかし、今年は新型コロナウイルスという未曾有の事態に見舞われ、ありとあらゆるイベント、興行、外出が禁止や中止、延期となりました。

そして我々が楽しみにしていた東京オリンピックも翌年への延期の決断を余儀なくされました。

その中でも当委員会として何かできないか、このような時期だからこそできないものはないか試行錯誤し、ソーシャルディスタンスを考慮した企画として、蔵前小地区の8町会をめぐるスタンプラリーを実施いたしました。

スタート時間をずらし、スタンプ設置場所も8町会に分けることで、密を避けながら親子での少人数団体で各町会を巡ります。子供達はゲームやレクリエーション等、各町会独自の催し物を楽しみ、お土産をもらいながら蔵前小地区を探検していました。



町会のご協力のおかげで地域の子供達も楽しめました。



受付でもコロナ対策をとり、消毒もしました。

例年は当委員会主体で実施しているコミュニティ祭りですが、今年は各町会をはじめ、各町会の関係者の皆様のご理解・ご協力のもと、委員一同丸となって取り込むことができ、新たな一面を見出すことのできる機会となりました。

まずはこのコロナ禍が一日でも早く解消するよう心より願っております。

和久田 太一



たくさん歩いて全ての町会のスタンプGET!



蔵前小OB・OGのボランティアの子も手伝いに来てくれました。



黒門小地区コミュニティ委員会は、平成3年3月に黒門小学校地区の住民が中心となり設立されました。年1回のコミュニティ祭りと上野地区盆踊り大会のイベントがあり、地域の方々とも楽しく交流しております。コミュニティ祭りは当委員会に参加している団体だけではなく、近隣の町会の方々にも来ていただき、100名以上の参加の下ビーチボールやボーリングに汗を流します。今後も、地元に根付いたコミュニティ委員会を目指したいと思います。

運営委員長 田嶋 章好



●アフターコロナにむけて

私が所属しているバドミントン部は創部からまだ日が浅く、活動場所を転々としながら細々と活動を続けていました。そんな中、当委員会の皆様に受け入れていただき、定期的に活動をさせていただくことができるようになりました。

仲間も増え、活動場所もでき、これから委員会活動に力を入れていきたいと思っていた矢先に、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい始めました。盆踊り大会などの楽しみにしていたイベントのほとんどが中止となり、部に

とつても、委員会にとつても厳しい状況が続いています。しかし、へこたれてはいられません。今できることは何か。今後、委員会活動が再開したときにいままです以上に活発に活動するにはどうすればよいかを私なりに考えてみました。

私は、その1つとして、メンバー同士が「互いを思いやる」ことが大切ではないかと思えます。もちろん、今現在思いやりがないというわけではありません(当委員会の雰囲気は本当にいいんです!新参者がそのように感じているので、長く所属されている方はより一層感じていると思います)。新型コロナウイルス感染症は人と人とのつながりも希薄にしています。人の触れ合いは制限され、繋がりも感じづらくなっている状況は、地域の繋がりを重視するコミュニティにとって危機的な状況ともいえると思えます。しかし、そのような状況でも、メンバー同士が互いを思いやり、助け合った経験は再開後の委員会活動で必ず活かせるはずです。共に新型コロナウイルス感染症という苦境を乗り越えた経験は、チーム間はもちろん、当委員会全体の繋がりを強固なものにするはずです。今はまだ思ったような活動はできませんが、来るべきその日に向けて思いやりの気持ちを持ち、再開の時を待ちたいと思います。

多田 拓司

